

## 日本語版によせて

“*The Science of Web Surveys*” の日本語翻訳版『ウェブ調査の科学』への小序を執筆する機会を得たことは、大変に光栄である。また、この日本語版が出版されることを、共著者共々心からうれしく思う。日本でも、インターネット調査やウェブ調査に関する重要な研究が行われているが、言語の違いから、往々にして日本以外の研究者との交流はあまりないようである。本書の筆者らは、この日本語翻訳版が、言語に起因する隔たりを埋め、日本の研究者たちがウェブ調査の方法論的研究を進め、それらの研究成果を他の国々と幅広く共有する励みになることを願っている。

本書（英語版）が2013年に出版されてから、すでに6年以上の歳月が経過し、ウェブ調査研究には数々の変化があった。また、変化はなく今までと同じままであることも多々ある。

変化した点に注目すると、まず、われわれが本書を執筆していた当時は、スマートフォンの急速な増加を予測してはいなかった。その後、スマートフォンがウェブ調査の回答記入完了やデータの質におよぼす影響に関する研究が数多く行われている。たとえば、Couper, Antoun, Mavletova (2017) による、スマートフォンを用いた最近の調査研究の総合報告がある。現在、多くの研究がスマートフォン向けの調査設計に重点的に取り組んでいる。ウェブ調査が直面する難題、たとえば、カバレッジ誤差、無回答誤差、測定誤差の問題を含む難題の多くは、スマートフォンが広く利用されるようになっても解決していない。これらの諸問題に関してわれわれが本書で論じていることの多くは、スマートフォンにも同じようにあるいはそれ以上に当てはまる。しかし、モバイル端末の特徴を最大限に活用することにより、ウェブ調査の設計における優れた部分をスマートフォンの調査設計にどのように拡大できるかについての新しい研究が行われている。幸いなことに、調査の設計に注意を払えば、スマートフォン利用者から提供される回答の質は、PC やタブレット端末を使用して提供された回答に劣ってはいない。その一方で、スマートフォン利用者の間では、依然として、中断率が高く、回答完了時間は長く、回答率は低いままである (Couper, Antoun, Mavletova, 2017 を参照)。

スマートフォンの増加に伴って、モバイル端末を使用して多様な追加データを取得することにも関心が高まっている。それらの研究は、スマートフォンに内蔵されている機能（例：加速度センサー、GPS 位置確認、カメラ、音声録音）を活用し、調査における測定を向上・拡張する方法に注目している。こうした問題に関連した研

究論文が、まさにいま、登場しつつある（例：Keusch et al., 2018; Revilla, Couper, Ochoa, 2018; Wenz, Jäckle, Couper, 2018などを参照）。今後何年かで、こうした分野では数多くの進展がみられるだろうと期待している。

筆者らが本書で取り上げなかったもう1つの発展分野は、ウェブ調査の評価にパラデータを利用することに関連している。パラデータへの関心はさらに広範囲にわたり高まっているが（Kreuter, 2013を参照）、ウェブ調査において「クライアント側パラデータ」を収集する汎用的なツールが最近になり開発されたこと（SchlosserのECSP: Embedded Client Side Paradataなど、たとえば、Höhne, Schlosser, Krebs, 2017を参照）が、この分野の発展に拍車を掛けている。Couper（2017a）において、私はパラデータの利用に関する総合報告を行っている。なお、とくに近年の欧州における「一般データ保護規則」（GDPR: General Data Protection Regulation）の導入に伴って、インフォームド・コンセントの問題についての懸念が高まっている。しかし、パラデータの収集は、回答者と調査票との間のやりとりに限定されており、倫理審査委員会でも許容範囲であると一般にはみなされている。いずれにしても、上述のように回答者の回答行動を追跡する受動的なデータを収集するには、通常は参加者の明確な同意が必要である。

これら以外の変化の多くは、本書で論じている研究領域での発展に伴い、本質的な進化を遂げている。そのような発展分野の1つが、ウェブ調査の調査参加者を抽出・募集する手法である。用いる手法に若干の進展はあるものの（Schonlau and Couper, 2017を参照）、根本的な課題は変わらぬままである。また、非確率的抽出の調査が増加していること（たとえば、Elliott and Valliant, 2017; Mercer et al., 2017を参照）や、従来の調査における費用の上昇と回答率の低下から、非確率的標本にもとづく統計的推測に対しても同様に関心が高まっている。この関心の高まりは、部分的には、ランダム・ディジット・ダイアリング（RDD: random digit dialing）による電話調査法の有効性が、米国および欧州で急速に低下したことに起因するものである。標本抽出枠として人口登録簿<sup>[1]</sup>が利用できる国々（日本など）にとっては、これはさほど懸念することではないかもしれない。人口登録簿を用いないで一般母集団の標本抽出を行える手法として、米国では「住所にもとづく標本抽出」（ABS: address-based sampling）への関心が高まっている（こうした問題の一部についての総合報告は、Couper, 2017bを参照）。

従来の確率的抽出にもとづく調査が直面する難題に関連して、われわれはウェブ調査も選択できる混合方式の発展を目の当たりにしている。本書でも混合方式を論じたが、現状、米国における多くの大規模な全国調査は、逐次混合方式<sup>[2]</sup>を採用している。現在、採用されている逐次混合方式では、多くの場合、人口登録簿やABS

<sup>[1]</sup> 訳注：たとえば、日本における住民基本台帳や選挙人名簿がほぼこれに相当する。

<sup>[2]</sup> 訳注：これについては用語集の「混合方式」の項を参照のこと。

を用いて抽出し、郵送にもとづいて募集し、ウェブ調査から開始する。こうした変化とともに、応答型調査設計（RSD: responsive survey design）や適応型調査設計（ASD: adaptive survey design）（Schouten, Peytchev, Wagner, 2017 を参照）、および、混合方式調査にもとづく推定の問題（たとえば、Klausch, Schouten, Hox, 2017; Schouten et al., 2013; Vannieuwenhuyze and Loosveldt, 2013 を参照）に関心が高まっている。このような進展は、ウェブ調査を単独の調査方式として用いても、また他の調査方式と組み合わせた混合方式として用いたとしても、政府、学術機関、商業界などのさまざまな分野におけるウェブ調査の利用が拡大することを意味している。

われわれ筆者らが2010年代のはじめに本書を執筆していた当時には、予想していなかった発展が他にもあり得ると、私は確信している。こうした新しい発展を知ることを私は楽しみにしている。それでもなお、われわれが本書においてウェブ調査について書いたことのほとんどが現在でも重要であり、本書はウェブ調査を利用する研究者にとって依然として有用な必携本である。ウェブ調査は、調査研究者にとって不可欠な方法として、その重要性がますます増している。

最後に、きめ細かな翻訳作業で日本語翻訳版を実現していただいた素晴らしい翻訳者チーム（大隅昇、鴉真紀子、井田潤治、小野裕亮の各氏）と朝倉書店編集部に深く感謝したい。翻訳の過程で生じた問題点を明確にするため、大隅氏とは数多くのメールのやり取りを行ってきた。翻訳者チームの慎重な作業過程において、英語原書には数々の誤りが見つかり、これらの誤りはこの日本語翻訳版では修正されている。日本語翻訳版は、翻訳者と編集部の努力のおかげで、英語原著を改善した内容になっている。この翻訳書がきっかけとなり、日本の研究者が自らの知識や専門技術を、世界のより多くの研究者たちと共有してくれることを願っている。

2019年6月

ミック P. クーパー (Mick P. Couper)  
ミシガン大学 調査研究センター、教授

## 参考文献

- Couper, M. P. (2017a). Birth and diffusion of the concept of paradata. *Advances in Social Research*. 18. 14-26. in Japanese (translated by W. Matsumoto).
- [松本 渉訳 (2017). パラデータ概念の誕生と普及. 「社会と調査」. 18: 14-26.]
- Couper, M. P. (2017b). New developments in survey data collection. In K. S. Cook, & D. S. Massey (Eds.). *Annual Review of Sociology*. 43. 121-145.
- Couper, M. P., Antoun, C., & Mavletova, A. (2017). Mobile Web surveys: A total survey error perspective. In P. Biemer, S. Eckman, B. Edwards, E. de Leeuw, F. Kreuter, L. Lyberg, C. Tucker, & B. West (Eds.). *Total Survey Error in Practice* (pp. 133-154). New York: Wiley.
- Elliott, M. R., & Valliant, R. (2017). Inference for nonprobability samples. *Statistical Science*.

- 32(2), 249–264.
- Höhne, J. K., Schlosser, S., & Krebs, D. (2017). Investigating cognitive effort and response quality of question formats in Web surveys using paradata. *Field Methods*, 29(4), 365–382.
- Keusch, F., Struminskaya, B., Antoun, C., Couper, M. P., & Kreuter, F. (2018). Willingness to participate in passive mobile data collection. *Public Opinion Quarterly*, forthcoming.
- Klausch, T., Schouten, B., & Hox, J. J. (2017). Evaluating bias of sequential mixed-mode designs against benchmark surveys. *Sociological Methods and Research*, 46(3), 456–489.
- Kreuter, F. (Ed.) (2013). *Improving Surveys with Paradata: Analytic Uses of Process Information*. New York: Wiley.
- McClain, C. A., Couper, M. P., Hupp, A., Keusch, F., Peterson, G., Piskorowski, A., & West, B. T. (2018). A Typology of Web survey paradata for assessing total survey error. *Social Science Computer Review*, published online first. DOI: 10.1177/0894439318759670.
- Mercer, A., Kreuter, F., Keeter, S., & Stewart, E. A. (2017). Theory and practice in nonprobability surveys: Parallels between causal inference and survey inference. *Public Opinion Quarterly*, 81(S1), 250–271.
- Revilla, M., Couper, M. P., & Ochoa, C. (2018). Willingness of online panelists to perform additional tasks. *Methods, Data, Analyses*, published online first. DOI: 10.12758/mda.2018.01.
- Schonlau, M., & Couper, M. P. (2017). Options for conducting Web surveys. *Statistical Science*, 32(2), 279–292.
- Schouten, B., Peytchev, A., & Wagner, J. (2017). *Adaptive Survey Design*. New York: CRC Press.
- Schouten, B., van den Brakel, J., Buelens, B., van der Laan, J., & Klausch, T. (2013). Disentangling mode-specific selection and measurement bias in social surveys. *Social Science Research*, 42(6), 1555–1570.
- Vannieuwenhuyze, J. T. A., & Loosveldt, G. (2013). Evaluating relative mode effects in mixed-mode surveys: Three methods to disentangle selection and measurement effects. *Sociological Methods and Research*, 42(1), 82–104.
- Wenz, A., Jäckle, A., & Couper, M. P. (2018). Willingness to use mobile technologies for data collection in a probability household panel. *Survey Research Methods*, in press.